

令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ ICT を活用した資料提示や双方向的学習ができた。
- ・ 単元をまとめる学習を充実させることができた。
- ・ 資料をもとに話し合い、考察する学習ができた。

(2) 課題

- ・ 基礎・基本の定着を進めるため、演習の時間を増やすべきであった。
- ・ 調べ学習を実践する活動が少なかった。
- ・ 課題をもとに意見を交流させる活動が少なかった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	標準スコアが全国平均より下回っている。	/	/
第2学年	標準スコアが前年度並びに全国平均を下回っている。	標準スコアが全国平均より下回っている。	/
第3学年	標準スコアが前年度並びに全国平均を下回っている。	前年度より標準スコアが上昇しているが、全国平均より下回っている。	標準スコアが全国平均より下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が目標値を下回っている。特に、知識の定着や資料の読み取りに課題が見られる。	校内平均正答率が目標値を下回っている。特に、各領域において資料を読み取り表現することに課題が見られる。	校内平均正答率が目標値を下回っている。特に、事象の関連性に着目し自分の言葉で表現することに課題が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
今年度の平均正答率が目標値よりも下回っている。特に、地理・歴史の基本的な語句の定着に課題が見られる。	今年度の平均正答率が目標値よりも下回っている。特に、複数の資料を基に、考察し表現することに課題が見られる。	今年度の平均正答率が目標値よりも下回っている。特に、初見の資料に対し既習事項を基に考察し取り組むことに課題が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
今年度の平均正答率が目標値よりも下回っている。特に、歴史的な資料の名称や内容の知識に課題が見られる。	今年度の平均正答率が目標値よりも下回っている。特に、気候区分をグラフをもとに考察することに課題が見られる。	今年度の平均正答率が目標値よりも下回っている。特に、資料を基に時代や地域の特色について読み取ろうとする態度に課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・単元終了後に、基礎的・基本的な知識を問う小テストを実施し、基礎・基本の定着を図る。 ・図やグラフ、統計資料を多く扱い、適切な読み取り方を学ぶ機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや歴史的資料をもとに話し合う時間を設け、考え・議論する学習を行う。 ・様々な資料から適切な情報を選び出し、それを自分の言葉でまとめる機会を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器などの視聴覚教材を使用し、単元や授業の導入の工夫を行う。 ・積極的に社会の出来事を取り上げ、社会の出来事への興味・関心を高める機会を提供する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な語句やその意味を定着させるため、ワークやタブレットを用いた反復演習を行う。	授業で複数の資料を用いた読み取りを行い、読み取った内容を文章でまとめさせる。また、資料を読み取る時はどのような点に着目すべきかを考えさせる。	既習事項を基に新しい内容を考察する学習に取り組みせ、自身の考えを構築し、表現できるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的な資料を扱う際は、名称を確認しながら資料をしっかりと読み、その意義や影響を考えるようにする。	複数の地域の雨温図を比較し、場所による違いや共通点に気づかせ、初めて見る雨温図でも考察できるようにする。	ICT機器を活用することで、生徒が興味関心を持ち、主体的に取り組む授業の実践を目指す。